

## 岡山県子ども・子育て会議 議事概要

### (開催要領)

- 1 開催日時：令和2年2月17日（月） 14：00～16：00
- 2 場所：県庁3階大会議室
- 3 出席委員名（計12名、敬称略）  
糸山 嘉彦、奥田 直子、亀山 誠子、佐藤 和順、滝澤 十、武本 吉正、  
中村 敏恵、則武 直美、服部 剛司、光岡美恵子、山口 哲史、山下 芳枝

### 【議事概要】

#### <議題>

#### 議題1 「岡山いきいき子どもプラン2020」(案)について

##### (桑原子ども未来課長)

資料1に基づき説明

委員からの意見等なし

#### 議題2 幼保連携型認定こども園の設置認可について

##### (桑原子ども未来課長)

資料2に基づき説明

### ○発言要旨

#### (委員)

認定こども園という制度ができて、県のこの会議あるいは子ども未来課は、政令市と中核市を除き、大体市町村が決めた方向で設置を認めていこうという方針のようによく前から聞いています。この6～7ページの表を見ると、県北の公立の幼稚園が近くの保育園へ被さってしまっているような、予算がかからないようにするための認定こども園のような感じが少ししています。現状として、3歳以上の子どもあるいは5歳児は、認定こども園で非常に役に立っているのか、スムーズに小学校とのつながりができているのか。現在のところこの制度が非常によかったと言えるかどうか。もう4歳、5歳は義務教育に、3歳以下は保育所が面倒をみるというようになるのがいいのではないかと思います。これはこれからの問題ですが、現状をお知らせ下さい。

#### (桑原子ども未来課長)

おっしゃるように認定こども園に移行しているケース、特に岡山市などで多くなっているというのは認識しています。ご懸念の小学校との連携につきましては、国が保育を実施する上で基本的な方針を保育所保育指針で定めており、その中で保育所の保育における幼児教育の積極的な位置づけというのが示されています。具体的には、保

育所保育において育みたいしつけや能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などについて、幼児教育との整合を図ることや小学校との連携を図ることなどが示されており、県としては、保育の実施主体である市町村へ必要に応じて助言するなどの支援を行い、認定こども園が適切に運営されるように努めたいと考えています。

(委員)

非常に大きな問題で、基本的には国としては幼保連携型認定こども園を推奨していくという方向であろうと思います。先程委員が懸念しておられた幼小保小の連携に関しましては、例えば横浜型と言われるような幼児教育・保育の現場に連携連絡調整の教員が入って調整を行うようなパターンであるとか、京都のほうにも何パターンかありますけれども、今各地域においていろいろな幼小保小の連携が図られているようです。幼保連携型と幼稚園・保育所における子どもの育ちがどのように違うかというのは、多分まだこどもそういった経験値が十分に備わっていないのではないかと思います。そもそも認定こども園制度が始まったのは、都市部の待機児童問題を解消することに加えて、過疎地において適正に子どもが集えるような環境を作ろうということだと思います。おっしゃるとおりいろいろメリットもあるでしょうし、逆にデメリットもいろいろ聞いていますので、今後そういったものを勘案しながら国が4歳、5歳を義務教育にするかどうかは全く分かりませんが、そういったことをそれぞれの委員のお立場で目を光らせながらご検討いただければと思います。

(委員)

私のところは認定こども園と保育園を両方やっております、特に岡山県では8施設のうちの7つを認定こども園に変えました。それはやはり人が多く採用できるのでクラスに入りやすく、運営費も少し増えて経営的にはやりやすいということ判断して、こども園に変えております。ただ、幼稚園の園庭要件等が厳しく、運動場がある程度の広さがないと保育園から認定こども園に変わらないなどいろいろな要素もあり、変わりにくいところもあるというのは他県であるように聞いています。今回の件について、過疎地に関しては認定こども園に変わった方が、幼稚園のお子さんも1号認定として受け入れることができ、経営としては安定していくのではないかとというような判断をされたのだと思いますし、とてもいい経営をされていますので、変わられてよかったのではないかと個人的には思っています。

(委員)

10 ページの 12 教育及び保育を行う期間及び時間で、1号認定の預かり保育の教育時間後は16時30分までになっていて、11 ページの2・3号認定の保育短時間利用の延長保育時間は16時30分～19時までになっていますが、これは市によってそれぞれ時間が決まっているのでしょうか。同じ市内でもこども園と普通の公立幼稚園が全然違う扱いになっていて、こども園に行っていない人は月に何回でも預かり保育が利用できるけれども、こども園の幼稚部の人は何日までというような規定があったり、なかなかこども園だからいいとは言いづらい状態で、この辺がどう決まっているのか疑問に思いました。

(事務局)

ここには、国の基準を基に一般的な数値で記載しています。実際に、一時預かりの取扱いなどその辺については市町村によって内容や制度などもおそらくかなり違うと思われるので、申し訳ありませんが、今ここでどういう違いがあつて、どういう形になっているかということを一概にお答えすることができません。もう少しこちらも勉強したいと思います。

(委員)

多分基本的には施設ごとに違うと思います。申請をされる時にきちんと笠岡市と協議をされて、そういった承認を得て書類を出してこられていると思います。そういうことで間違いないかと思いますが。

(委員)

施設ごとに差がでないようにいろいろと計算をするのですが、保護者の帰る時間等々で計算をされて、延長をつけた方がいいのか、そのまま保育園の方を利用した方がいいのか、幼稚園を利用した方がいいのかで我々の設定を超えた計算をされて苦情を言つてこられることも多いので、慌ててこちらもそれに合わせて対応しているのが現状です。

(委員)

一般的には、1号認定より2号の方が得のように保護者は思われているのですが、園によっては実は1号の方が得だという場合もあるので、施設ごとによって違うと思います。私から一点、この4月からの入園の予定数が分かれば教えてください。

(事務局)

申し訳ございません。予定人数はただ今把握しておりません。

(委員)

分かりました。先程委員の方からもお話がありましたが、基本的には、各市町村と十分な協議を経て、各市町村が問題ないと認めたものをこの会議に出していただいておりますので、県の方ではなかなか全てを把握しておりませんが、各市町村で十分な協議・検討をしていただいているということで問題はないかと思ひます。

### 議題3 その他

(桑原子ども未来課長・森子ども家庭課長)

資料3に基づき説明

(委員)

少子化対策でいろいろ手を打つていただいて、若者の結婚、出産、その後の子育てと非常に大切です。最後の子育て部門が保育園の関係で、どんどん数を増やして待機

児童を出さないようにしようとすると、どうしても保育士が必要になる。保育士がいなくて保育の質も下がってきます。そこで、一生懸命各保育園が職員を集めようとしていますが、他の地域との争奪戦が繰り広げられています。そこで、県にお願いしたいのが、保育士養成施設と保育所との連絡調整と言いますか、うまく話し合いが進むような調整をしていただきたい。支援ではなく、県が中心となって、県下の養成校と各保育所の求人担当を集めていただいて、保育士に特化した就職支援活動をしていただきたい。どうぞ研究してみてくださいようお願いします。

#### (桑原子ども未来課長)

保育士人材確保が非常に大事ということは十分認識しております。ご要望のありました件については研究させていただきたいと思います。

#### (委員)

広島と兵庫県の県境のところの最低賃金が違うということもあり、特に福山の方に県境の保育園が保育士を全部取られてしまうということで、非常に集まりにくい現状です。最低賃金を上げるのは難しいと思いますが、岡山と広島で40円ぐらい違って、かなり痛手を被っているということもあって、何か手が打てないかということで意見を言ってほしいということがありました。

保育士人材確保等対策強化で、保育士就職マッチングシステムを導入されますとありますが、潜在保育士の掘り起こしは、保育士の純増になるのでぜひやっていただきたい。実際に私どもの場合、保育士資格は持っているけれど、自信がなく本当にできるかどうかと思っておられる方が大変多いので、そういった方に勇気を与えられるような、少し年齢を重ねておられる方でも大丈夫と自信が持てる具体的な方がいると、自分もやってみようかということで増えたケースもありますので、そういった事例を取り入れていただければありがたいと思います。

それから、認可外保育施設の質の確保は、企業主導型など認可外の数が増えていきますので、質がもう一つということもありますので、そういった所の監査や指導の方もぜひ目を光らせていただければと思っております。

あと、キャリアアップ研修について、なかなかこの研修がいっぱい受講できないケースが多いのですが、e-ラーニングの研修があれば我々としては助かりますので、ぜひ具体的に進めていただければと思います。

#### (桑原子ども未来課長)

マッチングシステムについて、他県の例などを調べましても結構登録者が増えているケースもありますので、私共としても使いやすいシステムにして実績が上がるように頑張っていきたいと思っております。また、キャリアアップのe-ラーニングにつきましても、使いやすいシステムを作り、どこでも受講できるようにしたいと考えています。

認可外施設の質の確保につきましては、来年度研修ということになっていきますが、無償化の対象となるということもありますので、質の確保につきましてもしっかり取り組んでいきたいと考えています。最低賃金について、なかなかこの場で言うことは

難しいですが、県としましては、保育士の処遇改善ということで国への要望やキャリアアップ研修などこういった所で精一杯頑張っておりまして、引き続きやっていきたいと考えています。

(委員)

ご説明いただいた保育人材確保等対策強化の件ですが、幼稚園教諭については、県内で別のそういったシステムはあるのでしょうか。幼稚園も先生方の確保というのはすごく難しく、この会議は子ども未来課の所管なので保育士確保ということは分かりますが、多くの学生は幼稚園教諭と保育士の免許・資格をお持ちですので、例えばそういったシステムをもう少し、既にあるのであれば統合するなり、幼稚園教諭を対象に拡充すれば、まさしくこれが保育人材の確保につながると思うのですが、その辺についていかがお考えでしょうか。

(藤井総務学事課総括参事)

私立幼稚園の先生について、国の制度ではありますが、ベースアップ以外のところで処遇改善を行った場合、今年度まではその2%まで、県と国が1/4ずつ、園が1/2負担するという補助制度がありました。来年度に向けては要望中ですが、そういった制度があります。

(委員)

従来の各法人のベースアップに加えて2%ということですよ。

(藤井総務学事課総括参事)

その通りです。処遇改善の部分についてということです。

(委員)

マッチングシステムについてはどうでしょうか。例えば幼稚園教諭に復職したいけれども、どこにそういったニーズがあるかということを紹介していただけるようなシステムが、今実際に県内にあるのでしょうか。

(藤井総務学事課総括参事)

総務学事課では、そういったマッチングシステムといったものはありません。

(委員)

例えば幼稚園連盟などそういったところにありますでしょうか。

(委員)

岡山市のお力添えをいただき、市と私立幼稚園とで一緒に就職ミーティングという説明会を開催しております。

(委員)

すぐということではなくて、将来的に幼稚園教諭と保育士・保育教諭という枠でマッチングシステムだとか、そういったところでもぜひご検討いただければと思っております。

以上